

マツノザイセンチュウ抵抗性マツの検定

マツノザイセンチュウ病は、マツノマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウ（松くい虫）が、マツ内で繁殖してマツを衰弱・枯死させる病害です。京都府だけでも毎年約 1 万立米のマツが枯死し、景観や防災、マツタケの生産などに悪影響を与えています。

対策の一つとして、本病に抵抗性のあるマツの利用があり、その性能向上のため、母樹ごとに分けて育てた苗木にマツノザイセンチュウを接種して枯死する割合を調べています。

今年は 8 月に接種を行い、現在、苗木の状態を「健全」「衰弱」「枯死」に分けて経過を観察しています。この結果を基に、優れた母樹を絞り込み、より枯れにくいマツを生産していきます。



健全な苗木



マツノザイセンチュウ



枯死した苗木



衰弱した苗木

マツノザイセンチュウを接種したマツの苗木